

# 令和3年度 小林市立三松中学校 学校関係者評価書

【4段階評価】 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待をした回る 1：改善を要する

## ■ 学校経営ビジョン

「一人一人を大切に教育」を基盤とし、自らの個性に磨きをかけ、最大限に発揮し、光り輝く学校づくりを推進し、「自分に誇りを、友に誇りを、学校・地域に誇りをもつ生徒」を育成する。

【学校教育目標を達成するための重点目標：重点目標を達成するための具体的な取組】

重点目標	目標達成のための手段	具体的な数値目標等	結果の考察・分析及び改善策等 ○よかった点 ●反省点 *改善策等	自己(職員)評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
確かな学力の向上	1 基礎的・基本的な知識・技能等の定着と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月実施の実力テストが全学年とも地区平均点以上</li> <li>英語検定取得率35%以上</li> <li>きちんと立腰する生徒100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究授業などを通して授業改善を図ることができた。</li> <li>○ 授業の質を高める話し合い等が行われていた。</li> <li>○ 立腰ができる生徒が増えた。</li> <li>○ 授業の中で教え合いや学び間の場を設定し、共に分かり合う喜びを味わうことができた。</li> <li>● 家庭での学習習慣の定着の手助けが困難であった。(学習手引き活用含む)(2名)</li> <li>● 個に応じた指導(実力テスト・各種テスト)対策が行いづらい環境にある。学校一丸という感じではない。</li> <li>● 各種検査結果の分析は行ったが、十分な活用(個に応じた指導)ができなかった。(2名)</li> <li>● 地区平均を7~8点下回っている。</li> <li>● 立腰指導において、継続的な指導とともに、書く時の指導も必要である。(2名)</li> <li>* ICT研修会を増やす。</li> <li>* 学期の節目やテスト後など、「学習の手引き」を確認する場面を設定する。</li> </ul>	2. 4		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学力診断テストの類似問題に取り組み、正答率が上がった」との説明に、具体的な行動を起こすことの大切さを改めて感じました。一朝一夕に学力は向上しません。「授業の質を高める話し合い」「教え合いの場の設定」など、対策を積み重ねていかれることに期待しています。学力の向上は、教師と生徒の2つの側面から見する必要があります。教師は(1)指導方法の工夫改善、生徒には(2)学習の動機付け(自ら学ぶ姿勢の育成)が必要でしょう。たとえば、(1)研究授業に加え、日常の授業を互いに見たり見せたりすることで新しい発見があり、指導技術が磨かれると思います。授業を気軽に見せあえる雰囲気は今以上にできるといいですね。市の教育論文への参加を薦めます。「論文」というより自己の指導技術を振り返る実践記録として捉えてみてはどうでしょう。「ただでさえ忙しいのに…」という声も聞こえてきそうですが、1年前から少しずつ取り組むなど、忙しくない工夫をすることも教師の力量だと考えます。(2)西諸地区の高校入試の現状を見ると、「あまり勉強しなくても合格できる」と考えている生徒が多いように思います。入試も学習する動機の一つにはなりますが、将来の夢ややりたいことと関連付けて学習する生徒が増えてほしいものです。そのためにも、高校生や社会人の声を聞く機会が必要です。そのような授業をこれまでも参観させていただいており、三松中のキャリア教育は大変優れていると思います。さらなる取組に期待しています。</li> <li>○ 数学などの成績が向上したのは授業の工夫(意欲を高める)やテスト対策など先生方の努力が功を奏したと思う。</li> </ul>
	2 ICT活用を通して「わかった・できた」喜びを実感させ、「できることをより伸ばす」授業の実践的研究の推進【ICT活用推進モデル校】	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業でICT(タブレット)を活用できる教員70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業を組み立てる時に意識してICTを活用しようという雰囲気があった。(6名)</li> <li>○ ICT活用で授業内容が良い方向へ改善された。ICT推進モデル校(公開)が成功に終わって良かった。(2名)</li> <li>○ 情報活用能力は高まっている。(2名)</li> <li>○ タブレット活用について、どの場面での使用が生徒にとって必要なか考えながら活用できた。(2名)</li> <li>● 教師用のタブレット端末が一人一台無いため、活用がスムーズにできない場面があった。</li> <li>* 活用に努めているが、不具合が多い。環境整備をお願いしたい。</li> <li>* 情報モラル教育の充実を図る必要がある。(3名)</li> <li>* 情報活用能力について、生徒に身に付けさせたいレベルを学校としてどのように設定していくか必要であると思う。</li> <li>* 教師間の活用方法の紹介等の研修を行う。</li> </ul>	3. 3	3. 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICT推進モデル校の研究公開、お疲れ様でした。準備等で大変だったと思いますが、「ICT活用で授業内容が良い方向に改善された」と自己評価にあるように、先生方の前向きな姿勢が頼もしいと感じています。教師用のタブレットが足りないというお話も聞きました。そういう中で、先生方が意識してICTを活用していることを知り、「授業を充実させたい」という思いも強く感じました。</li> <li>○ ICTの導入は、生徒にとって視覚的に深く勉強ができ、より理解ができることも多いため、今後の活用方法を先進地域や他校を参考に検討して定着してもらえたらと思います。また、このことは先生方の負担軽減に大きく関わってくると思いますので、先生方一人につき1台の配置(設置)が必要と感じました。</li> <li>○ ICTを活用して授業ができて良い方向に進んでいるのはとても良いと思いますが、先生方に一人1台のタブレットが無いのが残念です。</li> <li>● 教育委員会への要望ですが、令和2年度の学校評価にも挙げたが、タブレットは先生方一人1台配付することで授業の準備や効率化を図る等よりスムーズな活用が期待できると思う。</li> <li>● 先生方のICT(タブレット)活用方法の研究会があるとよいと思います。</li> </ul>
	3 特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じてキャリア発達を促し、多様な気付きや発見を得させるキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学びたい度」60%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域人材活用を活かした授業がどの学年もできていた。(3名)</li> <li>● 系統性のある三松ならではの小中一貫教育が感じられない。(3名)</li> <li>● キャリアパスポートの作成ができていなかった。</li> <li>● 地域人材活用はしていたが、事前事後の指導やもって行き方など、もっと丁寧にした方がよかったと思う。教師間の話し合いや連携が十分でなかった。</li> </ul>	2. 8		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域人材を活用した授業を市内の学校で数多く見せていただいております。他の事例を参考に評価すると、三松中は優れた取組をしているといつも感じています。ただ、「事前事後の指導やもって行き方が…」と考察にあるように、活動自体を目的とするのではない取組が必要ですし、このことは小林市の地域学校協働活動の課題でもあります。どういう生徒に育てたいか、何を学んでほしいのかを教師間のみならず、活動に携わるすべての人と共有することが望まれます。三松小との小中一貫教育では、4年生と中学2年生の岩戸神楽の学習が特色でしょう。この取組も、何もない所から始まりました。「三松ならではの」の一</li> </ul>

						<p>貫教育をぜひ見つけていただければと思います。そのためにも、互いの学校について理解する日常的な情報の交換が必要でしょう。</p> <p>○ この項目1つを見ても、一人ひとりの生徒に目を向けた取組が学校として組織的に行われていると思いました。「一人ひとりの特性をつかむまで時間がかかった」という反省も書かれていますが、むしろ、そこまでして生徒を理解しようとした「成果」と考えてもいいかもしれません。</p>
	4 ユニバーサルデザインと個々の教育的ニーズに応じた指導の充実		<p>○ 電子黒板やワークシートを使用する授業を行うことができた。</p> <p>● 教科部会などを通して授業改善に繋がる取組ができなかった。</p> <p>● 一人一人の特性をつかむまで時間がかかった。</p>	2. 7		
豊かな心の醸成	1 自己効力感を感じる「居心地の良い温もりのある居場所」と「互いを高め合う絆」のある学校・学級づくり【魅力ある学校づくり調査研究校】	<p>・ Q-Uテストにおける学級生活満足群 60%以上</p> <p>・ 新規の不登校0</p>	<p>○ Q-U分析を活用して、生徒の実態把握して個別支援を意識的に行った。(8名)</p> <p>○ 要支援群を減らすための活動を実践した結果減少した。</p> <p>● 小中一貫による取組ができなかった。</p> <p>● 不登校が増えた。</p> <p>* 不登校の生徒への個別対応を組織で継続して行っていく。(2名)</p>	2. 9	3. 4	<p>○ 中学生にもなると友達同士のグループができやすく、時には表面化しない「いじめ」問題も出てくると思います。思い悩んだりした時に気軽に相談できる方法やSOSの出し方なども力を入れていただくと助かります。</p> <p>○ コロナ禍では、予期せぬ悩みやストレスが大人でも起こり得ます。まして自己形成途中の中学生はなおさらでしょう。表情や行動の変化から生徒の心の変化をどう読み解くか？言うのは簡単ですが、様々な手法でそれを行っている先生方に敬意を表します。Q-Uテストでは、満足度が向上していると聞きました。不登校への対応など、難しいこともあると思いますが、たとえ目に見える成果が出なくても、生徒に「寄り添った」事実は残ります。「寄り添うことや働きかけること」は「あなたはみんなにとって大切な存在です」というメッセージに他なりません。</p> <p>○ 面接指導の際、中学校の思い出として生徒がよく口にするのは「やり遂げた思い」です。今年も、体育大会の団長やリーダー、生徒会役員などでの苦労や喜びを、多くの生徒が語ってくれました。中心的な役割を担った生徒は充実感を得られる確率が高いということでしょう。では、そうでない生徒は…？「自分の役割を果たす生徒 100%」と数値目標にあります。教師が「これは君の役割だ」と言っても、生徒がそれを認識していなければ達成は難しいでしょう。「生徒会活動や係活動への意識が低い」との課題も見られます。大変難しい問題ですが、先生に与えられた活動ばかりで自分がやりたいことができない、仕事がない、活動の目的が分からないなどが理由かもしれません。時間はかかりますが、活動の意義や目的を丁寧に説明する、生徒が仕事を生み出す、必要を感じない仕事は無くすなどの対応も必要かなと思います。既にされているかもしれませんが…。</p>
	2 生徒指導の三機能を生かしながら自己指導能力を育む積極的な生徒指導と「凡事徹底」の推進	<p>・ 自分の役割を果たす生徒 100%</p>	<p>○ 生徒による自治活動の様子が見られる場面があった。</p> <p>○ あいさつは自ら行うことで生徒の手本となるように心がけた。</p> <p>● 生徒が自分の役割をどう捉え明確であったか、職員の常時指導の不十分さを感じた。</p> <p>● 職員間での意識の差や気づきに差があり、徹底した日常的指導ができなかった。日常的マナー指導も同様である。</p> <p>● 生徒会活動や係活動への意識が低い。</p> <p>* 魅力ある学校づくりに向けた生徒会の取組を今後も取り入れていきたい。</p> <p>* 生徒会活動での学級⇒学年⇒全校の流れを再構築すべきである。</p>	2. 8		
	3 考え議論する道徳(道徳科)を核とする道徳教育の充実と「時を守り、場を清め、礼を正す」相手意識をもった日常におけるマナー指導	<p>・ 職員の自己評価(4段階)で、3.0以上</p>	<p>○ 清掃への取組が向上している。</p> <p>● 清掃はほぼ無言清掃ができているが、一部できていない生徒がいる。集中し取り組ませる工夫が必要である。(3名)</p> <p>● 時間厳守ができていなかった。常時指導を根気よく行う必要がある。</p> <p>● 言葉遣い(敬語の使い方)の指導の改善が必要である。</p>	2. 6		
	4 心身に健康をもたらす読書活動の推進【読書活動推進支援校】	<p>・ 読書の一人平均12冊以上の割合60%</p>	<p>○ 学校目標が達成でき、読書推進が図られた。(4名)</p> <p>○ 毎日の給食時間に放送での呼びかけや紹介など、読書をしようとする雰囲気が高まったと思う。(2名)</p>	3. 6		
	5 道徳の時間や人権教育を通じた「いのちを大切にする教育」の推進	<p>・ 年間における取組を2回以上</p>	<p>○ 7月11月に「いのち教育週間」「性教育週間」と位置づけ、道徳の授業やいのちに係る給食放送、学校HP、全生徒一行詩コンテスト募集等、計画的に取り組めた。</p>	3. 1		
健やかな体の育成	1 心地よい汗をかく運動習慣の育成(体力向上プランの実践)	<p>・ 体力テスト48項目中24項目以上が県平均以上</p>	<p>○ 昼休みのボール(多種)貸し出しや体育館開放等体力向上につながったと思う。</p> <p>● 目標には至らなかった。1年生以外の数値は概ね良好である。</p> <p>● コロナ禍等もあり、生徒全体の体力が低くなった感じがする。</p> <p>● 「体力向上プラン」を全職員で共通理解共通実践を行う必要がある。</p>	2. 8	3. 1	<p>○ 昼休みに外で遊ぶ生徒が多いのは、体力面に加え、仲間づくりやストレス発散など、いろいろな効果生まれ、とても良いことだと思います。「体力向上プラン」の実践をよろしく願います。(2名)</p> <p>● 1年生の体力向上の取組を小学校とともに取り組んでもらえたらと思います。</p>
	2 学校保健委員会を活用し保護者と連携した健康教育の推進	<p>・ 虫歯治療率75%以上</p>	<p>○ 性教育週間を計画的に取り組めた。</p> <p>● 虫歯治療率の向上が見られない。家庭との連携が必要である。</p> <p>* 虫歯治療進め集会を開く(意識向上させる取組)。(2名)</p>	2. 8		<p>○ 虫歯の治療率53.3%は、中学校ではそう低い数字ではないと思います。今後も、いろいろな対策を講じられると聞いていますので、少しでも治療率が向上するよう期待しています。</p>

						○ 虫歯治療は、保護者の認識の低さも想定されるため、歯科衛生士による治療の重要性や悪化に伴う身体への影響、生徒・保護者を対象とした講話に実施など治療の必要を学び歯科受診に繋ぐよう検討も必要である。(2名)
望ましい食習慣の定着	1 マナーを高め、感謝の心を育てる給食指導(給食の残食ゼロ)	・ 給食の残食ゼロ	○ 給食時間の取組が良くなっている。 ○ 残菜への意識向上が図られた。(4名) ○ 保体部の先生方の工夫ある取組が良かった。担任として協力していただいていたがたかかった。(4名) ● 給食を減らす生徒が多い。好き嫌いで減らす生徒いる。(2名) ● マナー指導の向上。 ● 家庭科の授業だけでは、食への意識を高めることはできない。家庭との連携を図る必要がある。 * 食育コーナー(掲示板)を作って生徒の意識を変える。	3. 0	3. 1	○ 「給食時間の取組が良くなっている」「残菜への意識の向上が図られ」という文言から先生方の御指導の細やかさが伝わってきます。食の指導は、生徒自身のことにとどまらず、命や環境、食糧の問題など、SDGsに関わる世界に目を向けるきっかけになります。弁当の日や朝食欠食0の取組はとても良いと思います。 ● 朝食を取らないのは金銭的面や保護者の問題・睡眠時間・生活リズムの乱れなど学校の指導では限界もある。「給食だより」や、メール等の活用にて食事の大切さや栄養面の知識を深めることで生徒自身が自覚し保護者への協力体制が構築されることを期待します。
	2 健康を意識した食に関する指導の充実による栄養のバランスと免疫力の増進(毎朝の朝食摂取)	・ 自分で作った弁当を持参する生徒100% ・ 朝食欠食0%	○ ロードレース駅伝大会の弁当の日は、生徒達が意識して取り組んでいた。 ○ こすもす科の授業を通して弁当の日や食に対する意義を考える機会があり、その充実が図られた。 ● 寝坊して朝食を取らない生徒が数名いる。生活習慣の見直しの指導が大切である。 ● 自分で作っていない生徒がいた。自分で作るための意義や取組の改善。(3名)	2. 6		○ 全て自分で作った弁当を持参する生徒を増やしましょう。
その他	1 時間管理と計画的な業務の遂行により、効率化を図る。	・ リフレッシュデー以外の日で部活動がない日は午後5時30分までに全員退校する。	○ 働き方改革が積極的に図られていた。 ○ これまでより、学校に残る時間が減った。 ● (業務の量・分業・保護者連絡家庭訪問等) 早めの退庁が働き方改革につながらない。学校業務が多い。 ● 見通しをもった業務遂行に努めたが厳しい状況もあった。(2名) ● 保護者からの電話連絡を17時すぎでの連絡があった。 ● 時間外の仕事がなかなか減らない。 * 個々がもう少し見通しをもって業務に取り組むことで、早めの退庁に心がける。 * 各学年や校務分掌で活用した資料(紙媒体・データ)の整理。次年度担当者が、活用しやすい、引き継ぎ可能な状況での保存をしておく。	2. 7	3. 5	○ 社会全体において、働き方改革を推し進めなければならない業種の一つに学校の先生方が挙げられると思います。メリハリのある日常が構築できるように業務量の見直しや事務分掌の見直しなどを通じて、休業日と勤務日とが明確になり、より一層働きやすい環境で教育指導ができればと思います。 ○ 働き方改革を積極的に進めていこうという学校の取組を応援しています。「子どもたちのために」という言葉は、教師にとって、ある面、魅力的な響きがあります。しかし、その行動が子どもたちのためなのかどうかを、客観的、長期的に見る冷静な判断が必要でしょう。先生方が心も体も元気で学校にいることこそが「子どもたちのため」だと思います。今回の評価書を見て、学校の自己評価が低いのではないと思いますが、それも、先生方が自身の教育活動を真摯に振り返っていることの表われかなとも思っています。また、保護者の評価と意見についても、マイナス面も含めて全てを公開していただいているので大変参考になりました。
	2 三松中学校部活動の方針に基づく活動休養日の設定を徹底する。	・ 部活動の方針に基づく計画的な練習と休養日を全部活動が行う。	○ 部活動基本方針をほとんどの部が守っている。 ○ 部活動は2ヶ月8回の休日を入れることができた。 ○ メリハリがついた。生徒も家族との時間が増えた。 ● 大会が多く、休養日の確保が難しかった。	3. 2		○ 学校業務の洗い出しが必要と感じます。(以外と「やらなくてよいこと」までやったりしているので。)
	3 会議・校内研修等における時間の効率化を図る。	・ 効率的に会議・校内研修等を毎回行う。	○ 定例会議は時間割に位置づけられていた。 ○ 会議に実施等、日報にわかりやすく示されており助かった。 ● 休日と勤務日のメリハリをつける必要あり。 ● 本当に必要な会議・研修なのか、研修の精選をすべきである。(4名) ● 学校の組織力・教育力を高めるためには時間が必要だが、精選してほしい。 ● 会議方法(報告のみ、協議) * 各月の第〇週は職員会議、第〇週は研修会のように組み込んでいくと良いのでは。 * 今後、定期的な分掌部会・学年会を入れていただきたい。 * 会議研修の内容や時間に関しては、先生方の校務の立場や提案者の会議研修前準備状況で大きく異なる。学校経営案(学校運営組織・年間計画等)の見直し及び積極的な活用が必要である。	2. 6		○ 少しずつですが、働き方改革が進んでいると思います。(教育はすぐに結果が出ないので難しいと思います。) * 先生方の業務内容が煩雑で業務量も多く計画的な業務遂行が、困難を極め社会問題となっている昨今、専門職以外で対応可能な困りごとの解決に努めるなど、地域の人材を活かし先生方の負担軽減や子供たちの成長を見守り助け合える地域づくりについて、協議することを提案いたします。

<p>次年度の方向性についての 校長所見</p>	<p>○ 本年度の学校評価では、全ての項目において3を超える評価をいただいた。生徒の姿から成長を感じていただいていることは、大変ありがたく、また全職員で目標に向かって教育活動を推進できている成果であると考え。 しかし、職員の自己評価においては、項目によっては低い数値が見られることから、より効果的な具体策の推進に努めていきたい。</p> <p>○ 次年度も引き続き、「知育・徳育・体育・食育」のバランスのとれた生徒の育成を目指していくこととするが、特に本校の最重要課題もある「確かな学力の向上」及び指定研究の成果を生かすべく「豊かな心の醸成」について、さらなる教育活動の充実に努めていきたい。また、各項目において、以下の取組を中心に実践していきたいと考えている。</p> <p><b>【確かな学力の向上】</b> * 主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICT機器（タブレット）の効果的な活用と地域人材の活用によるキャリア教育のさらなる充実に努めていきたい。</p> <p><b>【豊かな心の醸成】</b> * 生徒がやりがいを感じ、達成感や自己肯定感を高めるための生徒主体の取組の推進を図るとともに、当たり前のことが当たり前に行える「凡事徹底」のさらなる定着に努めていきたい。</p> <p><b>【健やかな体の育成】</b> * 体力向上プランの実践をとおして、運動の日常化を図るとともに、家庭や地域との連携を図った健康教育の充実に努めていきたい。</p> <p><b>【望ましい食習慣の定着】</b> * 弁当の日の取組を中心に家庭との連携を図った食育の充実と、日常的な給食指導を大切にマナーや健康意識の向上に努めていきたい。</p> <p><b>【その他：働き方改革】</b> * 時間管理と見直しをもった業務遂行を図り、時間外勤務削減に努めるとともに、会議のスリム化を図り、時間の効率化に努めていきたい。</p>
------------------------------	--